

# 平成18年度 定期作況報告

(11月20日現在 年間とりまとめ)

北海道立中央農業試験場

# 畑作の部

## 畑作科（長沼町）

### I 気象概況

平成 17 年 9 月から平成 18 年 10 月までの概況は次のとおりである。

平成 17 年

9 月：気温は全般にやや高く、降水量は上旬が多く中下旬は少なく、日照時間は上旬が少なく中・下旬はやや多かった。

10 月：気温はやや高かった。降水量は上・下旬でやや少なかった。日照時間は上・中旬が多かった。

11 月：気温は上旬が高く、中・下旬がやや低かった。降水量は上・下旬が少なく、日照時間はほぼ平年並であった。初霜は平年より 17 日遅い 11 月 6 日で、降雪始は平年より 9 日遅い 11 月 9 日であった。

12 月：気温は中・下旬が著しく低かった。降水量は少なく、日照時間は上旬でかなり多く、中旬がやや少なかった。根雪始は平年より 8 日遅い 12 月 11 日であった。

平成 18 年

1 月～3 月：気温は 1 月上旬から 2 月上旬にかけて低く、2 月中旬～3 月上旬は著しく高く、3 月中下旬はやや高めに経過した。降水量は 3 月下旬が特に多かったほかは平年並みからやや少なめであった。日照時間は全般に少なかった。

4 月：根雪終は平年より 6 日遅い 4 月 11 日で、積雪期間は平年に比べ 3 日短い 121 日であった。気温は低く経過した。降水量は全般に多くで、日照時間は全般に少なかった。耕鋤始は平年に並の 4 月 18 日であった。

5 月：気温は中旬を除き上旬・下旬で低くかった。降水量は上・中旬が少なく下旬で多かった。日照時間は上・中旬が多かった。晩霜は、平年より 7 日遅い 5 月 7 日であった。

6 月：気温は 1 ヶ月を通じて最高・最低とも低く、上・中旬がかなり低かった。降水量は中・下旬で多く、日照時間は中旬でかなり少なかった。

7 月：気温は上・中旬が平年並みとなったが、下旬が著しい低温となった。降水量は中旬で平年よりやや多かった他は、上・下旬でかなり少なかった。日照時間は上・下旬で平年を大きく上回った。

8 月：気温は 1 ヶ月を通じて高く、中・下旬が平年よりかなり高くなった。降水量は中旬で平年よりやや多かった他は、上・下旬でかなり少なかった。日照時間は上旬で平年を大きく上回った他は、平年並からやや少なかった。

9 月：気温は平年並からやや低かった。降水量は上旬で平年並の他は、中・下旬でかなり少なかった。日照時間は中・下旬で多かった。

10 月：気温は上旬で高く、下旬でかなり低かった。降水量は中旬を除きかなり少なかった。日照時間は平年並から多く、下旬でかなり多かった。初霜は平年より 6 日早い 10 月 14 日であった。

11 月上・中旬：気温は上旬で平年よりかなり高く、中旬で平年並であった。降水量は上旬でかなり多く、日照時間は上旬で少なく、中旬でやや多かった。

以上、農耕期間（4～10 月）の気象を要約すると、6 月、7 月下旬、10 月下旬が低温に経過し、8 月がかなり高く経過した。これらから、積算平均気温は平年に比べ 56℃低い 3,034℃であった。降水量は期間を通じて少なく、7 月下旬～8 月がかなり少なかった。積算降水量では平年に比べ 244 mm 少ない 481 mm であった。日照時間は平年より 168 時間多い 1,127 時間であった。

気象表

道立中央農試(アメダス長沼)

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平成17年 9月	上旬	19.3	19.0	0.3	24.6	23.4	1.2	14.3	15.1	△0.8	82.0	35.2	46.8	2.0	4.3	△2.3	40.2	51.1	△10.9
	中旬	18.0	17.0	1.0	22.6	21.4	1.2	13.5	12.5	1.0	23.0	41.5	△18.5	3.0	3.7	△0.7	54.9	46.7	8.2
	下旬	15.4	15.0	0.4	20.5	19.9	0.6	10.4	10.1	0.3	22.0	46.1	△24.1	4.0	4.2	△0.2	56.3	49.5	6.8
10月	上旬	13.1	12.8	0.3	18.0	17.5	0.5	7.6	8.1	△0.5	27.0	40.0	△13.0	5.0	4.1	0.9	54.5	42.6	11.9
	中旬	12.6	11.1	1.5	17.8	15.9	1.9	6.7	6.0	0.7	30.0	29.7	0.3	3.0	3.7	△0.7	67.6	46.3	21.3
	下旬	9.7	9.1	0.6	14.2	13.6	0.6	5.2	4.3	0.9	31.0	37.1	△6.1	5.0	4.9	0.1	45.8	46.5	△0.7
11月	上旬	8.7	6.4	2.3	13.6	10.4	3.2	3.8	2.0	1.8	7.0	21.1	△14.1	3.0	4.7	△1.7	35.4	37.0	△1.6
	中旬	1.2	3.3	△2.1	4.8	7.1	△2.3	-2.1	-0.8	△1.3	31.0	28.1	2.9	5.0	5.5	△0.5	32.9	28.1	4.8
	下旬	1.5	2.0	△0.5	5.1	5.6	△0.5	-2.0	-1.7	△0.3	1.0	30.2	△29.2	3.0	5.1	△2.1	32.6	31.4	1.2
12月	上旬	-2.8	-2.0	△0.8	1.4	1.4	0.0	-7.0	-5.9	△1.1	13.0	23.1	△10.1	2.0	4.9	△2.9	60.7	30.1	30.6
	中旬	-6.8	-3.4	△3.4	-1.9	0.1	△2.0	-12.4	-7.5	△4.9	9.0	28.2	△19.2	5.0	5.9	△0.9	19.2	29.7	△10.5
	下旬	-8.1	-5.0	△3.1	-3.6	-1.0	△2.6	-13.8	-10.0	△3.8	21.0	26.8	△5.8	6.0	6.5	△0.5	34.8	33.9	0.9
平成18年 1月	上旬	-7.8	-6.2	△1.6	-3.6	-2.0	△1.6	-13.1	-11.6	△1.5	30.0	30.4	△0.4	7.0	5.4	1.6	33.1	31.8	1.3
	中旬	-7.1	-6.6	△0.5	-3.2	-2.6	△0.6	-12.1	-11.9	△0.2	36.0	21.1	14.9	6.0	5.0	1.0	27.0	31.7	△4.7
	下旬	-7.0	-6.9	△0.1	-2.7	-2.6	△0.1	-11.9	-12.1	0.2	7.0	24.6	△17.6	5.0	6.5	△1.5	37.7	41.4	△3.7
2月	上旬	-8.5	-6.2	△2.3	-4.4	-1.9	△2.5	-13.7	-11.4	△2.3	26.0	17.3	8.7	4.0	4.9	△0.9	33.5	42.4	△8.9
	中旬	-3.9	-6.0	2.1	0.4	-1.8	2.2	-10.3	-11.1	0.8	4.0	23.0	△19.0	2.0	5.6	△3.6	43.3	44.0	△0.7
	下旬	-1.3	-4.8	3.5	2.6	-0.4	3.0	-5.8	-10.6	4.8	26.0	17.9	8.1	3.0	4.1	△1.1	41.1	43.1	△2.0
3月	上旬	-1.2	-3.8	2.6	2.1	0.4	1.7	-6.0	-8.9	2.9	7.0	18.7	△11.7	5.0	4.8	0.2	43.6	52.0	△8.4
	中旬	-0.1	-1.0	0.9	3.3	2.6	0.7	-4.0	-5.2	1.2	9.0	12.9	△3.9	3.0	4.5	△1.5	33.1	51.6	△18.5
	下旬	1.9	1.2	0.7	5.2	4.9	0.3	-1.1	-2.9	1.8	56.0	19.5	36.5	4.0	4.7	△0.7	39.9	57.5	△17.6
4月	上旬	0.9	3.6	△2.7	4.2	7.9	△3.7	-2.4	-0.6	△1.8	14.0	8.8	5.2	4.0	3.2	0.8	51.2	52.1	△0.9
	中旬	4.9	6.2	△1.3	9.0	10.7	△1.7	1.2	1.8	△0.6	32.0	15.5	16.5	4.0	3.0	1.0	30.5	49.2	△18.7
	下旬	6.7	8.2	△1.5	11.3	13.2	△1.9	3.0	3.4	△0.4	10.0	13.2	△3.2	2.0	3.0	△1.0	43.0	51.4	△8.4
5月	上旬	8.5	9.3	△0.8	14.5	14.1	0.4	2.9	4.7	△1.8	23.0	37.8	△14.8	2.0	4.3	△2.3	81.4	53.1	28.3
	中旬	13.1	11.1	2.0	19.4	15.9	3.5	6.9	7.0	△0.1	16.0	33.5	△17.5	3.0	3.7	△0.7	94.8	46.8	48.0
	下旬	12.6	13.1	△0.5	16.8	17.9	△1.1	8.4	9.0	△0.6	38.0	22.9	15.1	5.0	3.3	1.7	54.1	46.9	7.2
6月	上旬	12.5	13.7	△1.2	16.9	18.3	△1.4	8.9	9.8	△0.9	21.0	24.2	△3.2	4.0	3.7	0.3	48.8	49.5	△0.7
	中旬	14.5	15.8	△1.3	18.7	20.4	△1.7	10.8	12.1	△1.3	23.0	15.0	8.0	2.0	2.0	0.0	27.3	45.9	△18.6
	下旬	16.5	17.1	△0.6	20.4	21.6	△1.2	13.7	13.6	0.1	41.0	24.5	16.5	4.0	2.8	1.2	40.3	48.0	△7.7
7月	上旬	17.5	17.5	0.0	21.8	21.3	0.5	13.8	14.7	△0.9	14.0	47.6	△33.6	3.0	3.9	△0.9	55.2	31.6	23.6
	中旬	20.0	19.6	0.4	23.8	23.7	0.1	17.4	16.5	0.9	45.0	36.0	9.0	5.0	3.5	1.5	30.5	34.8	△4.3
	下旬	19.1	21.2	△2.1	24.0	25.2	△1.2	15.3	18.4	△3.1	1.0	56.0	△55.0	1.0	4.3	△3.3	73.5	38.6	34.9
8月	上旬	23.2	21.5	1.7	28.8	25.4	3.4	19.2	18.7	0.5	0.0	63.4	△63.4	0.0	3.7	△3.7	74.2	37.8	36.4
	中旬	23.5	20.5	3.0	26.9	24.5	2.4	21.3	17.5	3.8	53.0	43.7	9.3	3.0	3.4	△0.4	33.0	42.7	△9.7
	下旬	22.2	20.1	2.1	26.0	24.3	1.7	19.4	16.6	2.8	9.0	54.3	△45.3	5.0	4.6	0.4	45.6	47.1	△1.5
9月	上旬	19.4	19.2	0.2	23.7	23.7	0.0	15.5	15.3	0.2	41.0	38.9	2.1	4.0	3.6	0.4	49.7	50.3	△0.6
	中旬	17.1	17.3	△0.2	22.6	21.7	0.9	11.9	13.0	△1.1	15.0	43.0	△28.0	3.0	3.7	△0.7	66.7	44.7	22.0
	下旬	14.3	15.0	△0.7	20.3	19.8	0.5	8.4	10.0	△1.6	20.0	42.8	△22.8	2.0	3.9	△1.9	65.6	49.4	16.2
10月	上旬	14.1	13.0	1.1	19.1	17.7	1.4	9.6	8.2	1.4	22.0	41.7	△19.7	4.0	4.3	△0.3	51.7	44.0	7.7
	中旬	10.4	11.0	△0.6	14.9	15.9	△1.0	4.4	5.7	△1.3	33.0	27.6	5.4	4.0	3.5	0.5	50.7	49.0	1.7
	下旬	6.7	8.9	△2.2	12.4	13.5	△1.1	0.7	4.2	△3.5	8.0	35.1	△27.1	2.0	4.8	△2.8	67.3	46.0	21.3
11月	上旬	9.8	6.7	3.1	13.7	10.8	2.9	4.9	2.3	2.6	79.0	18.9	60.1	4.0	4.5	△0.5	34.9	37.6	△2.7
	中旬	3.4	2.8	0.6	6.7	6.6	0.1	0.3	-1.0	1.3	33.0	29.2	3.8	4.0	5.3	△1.3	36.3	29.2	7.1

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は過去10年間を用い、中央農試で算出した。△は減を示す。

なお、データは、平成16年までは確定値、平成17年からは速報値を用いた。

確定値の最高・最低気温は、平成15年1月より測定法が変更されている。(毎正時→10分計)

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

季節表

年次	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H17. 12.11	H18. 4.11	121	H18. 4.17	H18. 4.18	H18. 5.07	H18. 10.14	159	H18. 11.12
平年	12.03	4.05	124	4.14	4.18	4.30	10.20	172	10.31
比較	8	6	△ 3	3	0	7	△ 6	△ 13	12

注) 平年値は中央農試における平成8年～17年の10年間の平均値を用いた(初霜、降雪始および根雪始は平成7～16年の平均値)。

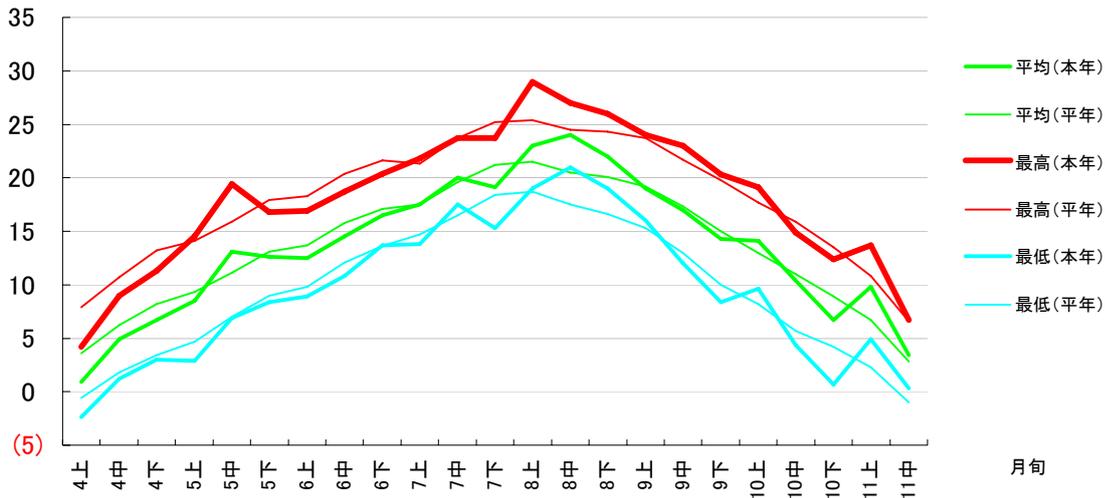
積雪期間の平年値にはうるう年を含むため、根雪始・終の差と一致しない。

農耕期間の積算値

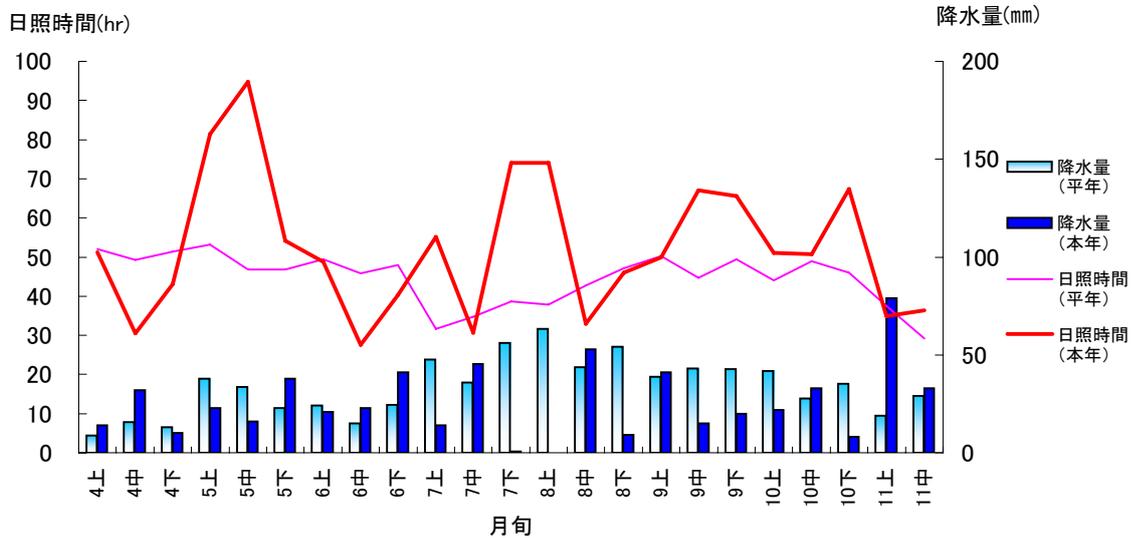
項目		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～10月	本年	3,034	4,028	2,148	481	1,127
	平年	3,090	4,044	2,243	725	959
	比較	△ 56	△ 16	△ 95	△ 244	168
5～9月	本年	2,590	3,306	1,982	362	833
	平年	2,574	3,245	2,012	584	667
	比較	16	61	△ 30	△ 222	166

気温°C

2006年 中央農試の気温(アメダス長沼)



2006年 中央農試の日照時間と降水量(アメダス長沼)



## Ⅱ 作況

### 1. 秋まき小麦(平成17年播種) 作況：やや不良

事由：播種期は平年に比べ2～1日遅く、出芽期は1日遅れた。越冬前の生育は気温が高めに経過したことから良好であった。根雪始は平年より8日、融雪終わりは6日それぞれ遅く、積雪期間は3日短かった。雪腐病による冬損の発生は平年に比べ多めとなった。

融雪期前後および5月下旬以降の低温のため、出穂期は平年に比べ6～8日遅く、成熟期は平年より4～5日遅れとなった。「ホロシリコムギ」は平年より穂数が多かったものの中程度の倒伏が発生し、登熟期間の日照不足傾向もあり、千粒重は小さく、子実重は平年並となった。「ホクシン」も穂数は平年より多かったが、穂長が短く、少程度の赤かび病の発生が見られ、子実重は平年を12%下回った。

以上により、本年の作況はやや不良である。

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H17.月.日)	9.15	9.13	2	9.15	9.14	1
出芽期	(H17.月.日)	9.21	9.20	1	9.21	9.20	1
出穂期	(H18.月.日)	6.10	6.04	6	6.16	6.08	8
成熟期	(H18.月.日)	7.23	7.18	5	7.28	7.24	4
冬損程度	(0:無～5:甚)	2.4	1.2	1.2	2.0	0.9	1.1
草丈 (cm)	H17.10.20	28.5	23.0	5.5	27.0	24.0	3.0
	H18.5.20	48.8	48.3	0.5	49.2	52.1	△ 2.9
	H18.6.20	101	94	7	103	103	0
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	H17.10.20	1124	980	144	1049	851	198
	H18.5.20	1484	1089	395	1590	1061	529
	H18.6.20	820	656	164	850	621	229
成熟期 における	稈長 (cm)	99	88	11	111	97	14
	穂長 (cm)	7.8	8.9	△ 1.1	7.8	8.8	△ 1.0
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	846	619	227	802	539	263
倒伏程度	(0:無～5:甚)	0.0	1.1	△ 1.1	3.1	1.5	1.6
子実重	(kg/10a)	545	619	△ 74	566	557	9
リットル重	(g)	795	802	△ 7	796	790	6
千粒重	(g)	40.9	38.9	2.0	42.0	45.0	△ 3.0
品質	(等級)	2中	2上	—	2中	2下	—
子実重平年対比	(%)	88	100	△ 12	102	100	2

注1) 平年値は前7か年中、最凶(H12年)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH16)を除く5か年平均(収穫年月)

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。0(無)～5(甚)の6段階評価。

## 2. 春まき小麦 作況：良

事由：播種は平年並の4月18日に行った。播種後の気温が低かったため、出芽期は平年より2日早い5月3日となった。出芽後も低温に経過したことから生育は緩慢となり、出穂期は平年より4～5日遅い6月24～25日となった。生育は遅れたものの、両品種とも生育量は多く、稈長および穂数は平年を上回った。成熟期は平年より3～5日遅く、登熟日数は平年並みに確保された。一穂粒数と千粒重はいずれも平年をやや下回ったが、穂数が多かったことから、子実重は平年比109～117%の多収となった。リットル重は平年並みで、外観品質も平年並みであった。

以上により、本年の作況は良である。

品種名 項目 \ 年次		ハルユタカ			春よ恋		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	4.18	4.18	0	4.18	4.18	0
出芽期	(月.日)	5.03	5.01	2	5.03	5.01	2
出穂期	(月.日)	6.25	6.20	5	6.24	6.20	4
成熟期	(月.日)	8.06	8.01	5	8.04	8.01	3
草丈 (cm)	5月20日	19.4	19.0	0.4	19.8	20.3	△ 0.5
	6月20日	76	73	3	79	79	0
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	308	515	△ 207	323	646	△ 323
	6月20日	762	675	87	818	704	114
成熟期 に おける	稈長 (cm)	88	86	2	98	93	5
	穂長 (cm)	8.4	8.3	0.1	8.5	8.5	0.0
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	508	464	44	542	463	79
子実重	(kg/10a)	484	412	72	528	486	42
一穂粒数	(粒)	28.9	30	△ 1.1	30.6	32.9	△ 2.3
千粒重	(g)	38.8	39.0	△ 0.2	40.7	41.4	△ 0.7
リットル重	(g)	796	790	6	813	813	0
品質	(等級)	2下	2中	—	2上	2中	—
子実重平年対比	(%)	117	100	17	109	100	9

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、14年(最豊)を除く5か年平均。

ただし、「春よ恋」の草丈・茎数は前5か年の平均。

一穂粒数は、各反復で有効穂を50穂調査。リットル重は1リットル升による測定。

### 3. 大豆 作況：やや不良

事由：播種期は平年より3日遅い5月24日であった。播種後、6月まで低温に経過したことから、出芽期は平年より3～4日遅く、生育は停滞し、7月に入り気温が回復したものの、開花期は平年より4～5日遅れとなった。7月下旬～8月中旬はほとんど降雨が無く、かなりの高温に経過したことから、生育量はほぼ平年並みに戻ったものの、干ばつ傾向となり、下葉の枯れ上がりが認められた。その後は順調に登熟が進み、成熟期は平年より5日遅かった。

中生の「ツルムスメ」では、干ばつの影響により、着莢数は平年比92%と少なかったが、その後順調に登熟したことから、一莢内粒数と百粒重はほぼ平年並であった。このため子実重は平年比95%の326kg/10aとなった。品質は平年を上回った。

晩生の「ユウヅル」は、干ばつ後の降雨と好天により、2次花房の着莢により着莢数は平年並となった。一方、一莢内粒数は平年比81%とかなり少なかったが、登熟期間が順調に経過したことから、百粒重は平年より大きくなった。このため子実重は平年比96%の339kg/10aとなった。品質は裂皮の発生があったものの平年を上回った。

以上により、今年の作況はやや不良である。

品種名 項目 \ 年次		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ(参考)			スズマル(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.24	5.21	3	5.24	5.21	3	5.24	5.21	3	5.24	5.21	3
出芽期	(月.日)	6.05	6.02	3	6.05	6.01	4	6.04	5.31	4	6.04	5.31	4
開花期	(月.日)	7.24	7.19	5	8.02	7.29	4	7.22	7.17	5	7.30	7.25	5
成熟期	(月.日)	10.04	9.29	5	10.19	10.14	5	9.30	9.27	3	10.01	10.01	0
主茎長 (cm)	6月20日	5.1	10.0	△ 4.9	5.4	10.1	△ 4.7	6.4	12.2	△ 5.8	5.3	9.4	△ 4.1
	7月20日	42.6	45.7	△ 3.1	36.5	42.1	△ 5.6	44.8	51.1	△ 6.3	34.8	40.8	△ 6.0
	8月20日	57.8	55.2	2.6	70.5	82.7	△ 12.2	61.7	61.3	0.4	65.8	72.5	△ 6.7
	9月20日	57.5	56.3	1.2	69.8	83.8	△ 14.0	60.2	61.7	△ 1.5	66.5	72.6	△ 6.1
	成熟期	57.3	55.5	1.8	66.5	83.0	△ 16.5	60.9	60.9	0.0	67.9	72.4	△ 4.5
主茎節数 (節)	6月20日	2.5	3.7	△ 1.2	2.3	3.6	△ 1.3	2.6	3.3	△ 0.7	2.2	3.8	△ 1.6
	7月20日	10.5	11.1	△ 0.6	10.2	10.9	△ 0.7	9.4	9.7	△ 0.3	10.6	10.5	0.1
	8月20日	12.5	12.2	0.3	15.9	15.6	0.3	11.0	10.4	0.6	14.9	14.2	0.7
	9月20日	12.8	12.3	0.5	15.9	15.6	0.3	11.0	10.1	0.9	14.8	14.2	0.6
	成熟期	12.8	12.0	0.8	16.0	15.6	0.4	11.0	10.2	0.8	15.3	14.0	1.3
分枝数 (本/株)	7月20日	5.5	5.7	△ 0.2	4.3	3.3	1.0	5.0	6.4	△ 1.4	7.3	7.4	△ 0.1
	8月20日	7.2	6.3	0.9	5.8	4.9	0.9	5.5	6.7	△ 1.2	10.8	11.1	△ 0.3
	9月20日	6.9	6.4	0.5	5.9	4.4	1.5	5.5	6.5	△ 1.0	11.7	10.5	1.2
	成熟期	7.4	6.1	1.3	6.2	3.7	2.5	5.5	6.3	△ 0.8	11.9	9.4	2.5
着莢数 (莢/株)	9月20日	48.5	53.4	△ 4.9	60.0	55.6	4.4	54.8	70.1	△ 15.3	119.1	124.7	△ 5.6
	成熟期	49.3	53.7	△ 4.4	58.6	57.1	1.5	59.4	68.2	△ 8.8	122.6	119.7	2.9
一莢内粒数		1.84	1.81	0.03	1.52	1.87	△ 0.35	1.76	1.80	△ 0.04	2.30	2.36	△ 0.06
子実重	(kg/10a)	326	344	△ 18	339	354	△ 15	352	391	△ 39	362	326	36
百粒重	(g)	46.7	45.8	0.9	45.0	43.2	1.8	41.8	39.0	2.8	16.3	14.6	1.7
屑粒率	(%)	4.6	1.5	3.1	1.8	2.6	△ 0.8	2.2	1.9	0.3	1.2	2.4	△ 1.2
品質	(等級)	2中	3上	—	3中	3下	—	3下	3中	—	1	2下	—
子実重平年対比	(%)	95	100	△ 5	96	100	△ 4	90	100	△ 10	111	100	11

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

ただし、トヨムスメ、スズマルは、前5か年の平均を平年とし参考値を示す。

#### 4. 小豆 作況：不良

事由：降雨により播種期が平年より2日遅い5月26となった。播種後は、低温で経過したことから出芽の揃いが悪く出芽期は平年より7日遅い6月17日となり、生育は平年を下回った。7月上旬の好天により生育は回復しほぼ平年並となった。開花期は平年より3日遅い7月28日であった。開花後の7月下旬から8月中旬まで高温多照小雨で経過したことから、生育が停滞した。その後も気温がかなり高く推移したことから、成熟期は平年より5日早い9月3日となった。一莢内粒数は平年並であったが、開花後の高温干ばつによる着莢障害のため着莢数は平年を大きく下回った。その結果、子実重は平年比53%と著しく平年を下回った。また、百粒重は平年よりやや軽く、屑粒率は少なく、品質は平年並であった。

以上により、本年の作況は不良である。

品種名 項目 \ 年次		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.26	5.24	2
出芽期	(月.日)	6.17	6.10	7
開花期	(月.日)	7.28	7.25	3
成熟期	(月.日)	9.03	9.08	△5
主茎長 (cm)	6月20日	3.4	5.0	△ 1.6
	7月20日	20.0	21.0	△ 1.0
	8月20日	42.0	61.0	△ 19.0
	成熟期	44.0	62.0	△ 18.0
主茎節数 (節)	6月20日	1.2	2.0	△ 0.8
	7月20日	7.9	8.0	△ 0.1
	8月20日	12.3	13.0	△ 0.7
	成熟期	12.7	13.0	△ 0.3
分枝数 (本/株)	7月20日	2.9	3.0	△ 0.1
	8月20日	4.3	4.0	0.3
	成熟期	4.4	4.0	0.4
着莢数 (莢/株)	8月20日	39.0	56.0	△ 17.0
	成熟期	35.5	50.0	△ 14.5
一莢内粒数		6.00	6	0.00
子実重	(kg/10a)	162	307	△145
百粒重	(g)	12.4	13.0	△ 0.6
屑粒率	(g)	4.5	7.0	△ 2.5
品質	(等級)	3上	3上	—
子実重平年対比	(%)	53	100	△47

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均。

## 5. ばれいしょ 作況：不良

事由：融雪後の低温多雨のため植付期は平年より4日遅い5月8日となり、萌芽期も5月27日で平年より2日遅かった。

萌芽後も低温のため、開花始は6月28日で平年より6日遅れた。その後の天候回復により生育も回復していき、茎長はやや長め、茎数は平年並みとなった。しかし、7月下旬以降8月中旬まで極端な旱魃状態となり、さらに8月上旬からは著しい高温に経過したため、塊茎の肥大が進まないまま平年より5日遅れで枯凋期に達した。上いも1個重は平年よりやや小粒で、上いも数もやや少なく、上いも重は平年比88%、中以上いも重で平年比84%と平年を大きく下回った。でん粉価は18.6%と平年より高くなった。

以上により、本年の作況は不良である。

項目	品種名 年次	男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.08	5.04	4
萌芽期	(月.日)	5.27	5.25	2
開花始	(月.日)	6.28	6.22	6
枯凋期	(月.日)	8.24	8.19	5
茎長 (cm)	6月20日	26	33	△ 7
	7月20日	46	40	6
茎数 (本/株)	6月20日	5.0	5.4	△ 0.4
	7月20日	5.4	5.3	0.1
8月20日における				
上いも数	(個/株)	12.2	13.0	△ 0.8
上いも平均一個重	(g)	72	77	△ 5
上いも重	(kg/10a)	3898	4383	△ 485
でん粉価	(%)	18.6	14.6	4.0
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	12.2	13.0	△ 0.8
上いも平均一個重	(g)	72	77	△ 5
上いも重	(kg/10a)	3898	4418	△ 520
中以上いも重	(kg/10a)	2919	3459	△ 540
でん粉価	(%)	18.6	14.6	4.0
上いも重平年対比	(%)	88	100	△ 12
中以上いも重	" (%)	84	100	△ 16
でん粉価	" (%)	127	100	27

注) 平年値は前7か年中、平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g以上、「中以上いも」は61g以上のいもである。

## 耕種概要

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

	一区面積 (m <sup>2</sup> )	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/m <sup>2</sup> )	株数 (株/10a)
秋まき小麦	9.6	4	緑肥	30	条播	—	255	—
春まき小麦	7.2	4	緑肥	30	条播	—	340	—
大豆	25.2	3	緑肥	60	20	2	—	8,333
小豆	8.4	3	緑肥	60	20	2	—	8,333
ばれいしょ	10.8	3	菜豆・大豆	75	30	1	—	4,444
てんさい	13.1	4	小豆	60	23.8	1	—	7,003

	10a当たり施肥量(kg)				
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	堆肥
秋まき小麦	4.0+6.0	12.5	5.0	—	3,000
春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	3,000
大豆	1.5	11.0	7.5	3.5	—
小豆	4.0	19.2	9.2	2.4	—
ばれいしょ	10.4	16.8	14.0	5.0	3,000
てんさい	15.4	25.2	16.8	5.6	3,000

## 中央農試作況報告について

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。